

「リニアは安全審議を尽くせ」

(朝日新聞 5月10日「声」より)

Ⓣ16

2011. 5. 11

JR東海労東二運分会

国土交通省政策審議会 中央新幹線小委員会 が開かれ、リニア新幹線に対する最終答申案を明らかにしました。その答申案の中に、「異常時の対応」という項目があり「これまでの技術的な検討により、地震や大深度地下での火災などの異常時における安全確保について、整備計画段階での対応方針が示されており、その内容が小委員会において確認されている。」となっています。(下線は筆者)

しかし、この「安全確保」は「在来型新幹線方式と超伝導リニア方式の性能面」からしか検討されていないのです。「安全確保」の根拠は、① ガイドウェイ側壁で物理的に脱線防止、② 強力な電磁力でガイドウェイ中心に車両を保持、③ 大地震の際には左右・下部のストッパー輪で車両とガイドウェイの直接衝突を防止、④ ブレーキ装置を全て使用して急減速、です。補足として、○ 地震で停電しても電磁誘導作用により車両の浮上状態を維持、○ 早期地震警報システムで地震検知後速やかに車両にブレーキ動作、が挙げられているだけです。

ところで、見出しの「リニアは安全審議を尽くせ」は、山梨県に住む91才の男性からの投稿です。この男性は、東日本大震災後なのに耐震性を本格的に審議していないと指摘し、福島第一原発も設計計画も「安全」とお墨付きを与えていた経緯を思い起こす、と言っています。そして、「万能でないリニアの審議会はいま一度安全対策について慎重を期して十分に審議を尽くし、原発で犯した過ちを繰り返してはならない。」と結んでいます。

全くその通りだと思います

リニアの「安全確保」を「在来型新幹線方式」との比較だけで、脱線しないで停止する、としか言っていないのです。脱線せずに止まるのは当然です。止まらない鉄道など世界中を探してもどこにもありません。今回は触れられていませんが、大深度地下での事故や火災も、別トンネルとエレベーターを設置するので安全に避難できるとも言っています。



コンピュータを使って、様々なシミュレーションをしており、想定される異常時の安全確保は全てクリアーしたと言うことのようにです。しかし「想定外」は起きるのです。残念ながら、福島第一原発がそれを示しています。



原発事故を教訓に リニアへの動きを止めましょう

「**想定外** **それでも収監** **罪と罰**」 C D 頑爺

(注・ニコマ漫画は、作者に無断で掲載 しかも本文とは無関係です)